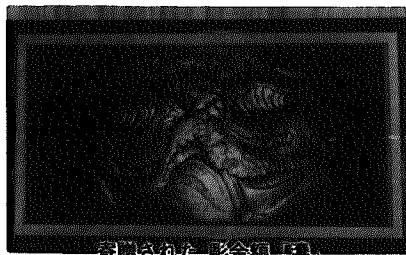


亀倉宇吉氏(雅号蒲舟、彫金家)は去る一月二十一日、黒埼町総合体育館へ備品として鍍金額

亀倉宇吉さんに紺綬褒章

澁図(二二〇cm×五七cm)

を寄贈されました。その善意と篤志が認められ、昭和五十三年四月二十九日付、内閣総理大臣から褒状及び木杯一組台付が授与され町長から伝達されました。鍍金額 澁図は総合体育館正面玄関に掲示され五色に輝いています。総合体育館を訪れた際は是非ご鑑賞下さい。



寄贈された彫金額「蒲舟」



暑い暑い成人式 出席率も50%に

一足遅い成人式が、八月十五日新設なった総合体育館で行われ、異常な酷暑が影響してか、出席率は五〇パーセント、広い体育館がちょっと寂しそう。式は九時三十分、公民館長のあいさつで始まり、「太く、長く張り合いのある人生を送ってほしい」と激励、これに答え成人を代表して笹川藤昭さんが「成人になったことを自覚し、町の発展に努力をする」と力強く宣誓を行いました。各来賓の祝辞に続いて、長谷川亜弥子さんが答辞をのべ、「私たちの

ために盛大に成人式を開いていただき感激にたえない、これから多くの責任を自覚し、心身の鍛練に励み、社会の一員として、まじめに生きる決意を新たにしている」とお礼の言葉を、この後、記念講演にうつり、医学博士で(元)町長の健康と題し、方言をまじえたユーモアたっぷりな話「過剰に神経を使ったり、心配ごとがあると胃が悪くなったりする、心と体が強く密接している証拠である」等頭の前から、足のつま先までの病気を例にとり詳しく話され、最後に「困難にぶつかった時が、その人を評価できる、正しい行動のとれる良識を養ってほしい」と結び一人の成人者も帰ることなく、真剣に聞き入っていました。式は、十一時三十分終了し、し

「人権と世の姿」人の姿

黒中で講演会

人権モデル町継続事業二年目、明るく住みよい町づくりをめざし、人権尊重啓発活動を行っており、七月七日佐藤秀夫氏を講師に生徒三百余人を対象として「人権と世の姿、人の姿」と題して講演会が中学校で開かれました。演壇に立たれた氏は、人権とは一人一人の権利をおかささない、人は生まれながらにして幸せに生きる権利が与えられている、人権は平等であり、自分さえよければよいという考え方を捨て、仲よくする、人の人たる所以は、人の人たる和合にあり「心に美しい花を咲かせ、親に子に祝福の花を、子は親に感謝の花

人事異動

〇管理職 (一)は旧職名
企画調整課長 大谷要治(建設課長、建設課長 高橋雄吾(昇格)、森 元成(企画調整課長)退職
〇一般職
建設課 渡辺 渡(教育委員会) 教育委員会 池兼清市郎(給食センター)

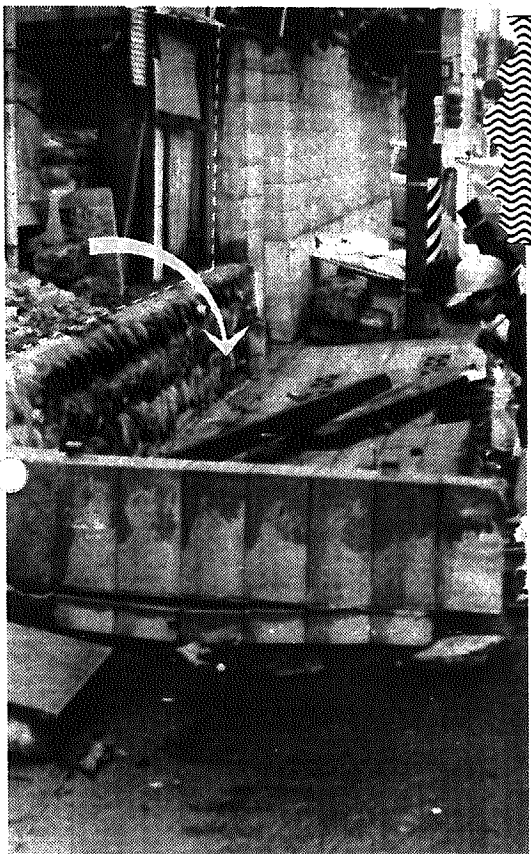


ばらけぶりに会った友や恩師と談話し、記念のアルバムを手に家路へ、同級会会場へとそれぞれ散って行きました。
答辞をのべる長谷川亜弥子さん
を捧げましょう」と具体例をもつて話され、学校生活、家庭生活の身近な問題に生徒は真剣に聴き入っていました。今後の事業として、昨年に引き続き中学生対象の人権作文、書道、図画募集、一般を対象とする人権標語募集、人権特設相談所開設等啓発事業が計画されており、各家庭でもご理解ご協力をお願い致します。

地震！ そのときあなたは？

九月一日 防災の日

日本は世界でも有数の地震国です。体で感じることでできる「有感地震」は、一年間に七百〜二千件前後、一日に約二・五件の割合で発生しています。九月一日は、防災の日です。いざというとき、被害を最小限にいとめるには、日ごろの心がまえと準備が何よりも大切です。「天災は忘れはるるにやってくる」……この機会に、一度、わが家の防災対策について考えてみましょう。



宮城県沖地震では、13人が倒れたブロックべいの下敷きになって亡くなりました。

お宅のブロックべいは 大丈夫ですか

宮城県沖地震の教訓

六月の「宮城県沖地震」で、二十八人の痛ましい犠牲者がたことは、まだ記憶に新しいところですが、なかでも、わたしたちにとって大きな衝撃だったのは、倒れてきたブロックべいの下敷きになって命を落とされた方が十三人もいたことです。仙台市の郊外住宅地区では、全体の六割近くがブロックべいをめぐらしていますが、そのうち四割近くが、倒れたか、倒壊寸前となったのです。

地震直後に、現地を訪れて調査に当たった建設省建築研究所第二研究部無機材料研究室長は、次のように話していました。「倒れたブロックべいは、鉄筋が入っていないか、入っていても基礎の部分にしっかりとつながっていないものが大部分です。それにブロックと鉄筋を接着させる詰めモルタルが効いていない。これでは、鉄筋を入れてあっても、

倒れを防ぐ効果はありません。また、倒れたものの中には、基礎のコンクリートがないもの、控え壁(ベロックべいの背面につける補強用の壁)のないのや、あっても鉄筋でへい本体とつながっていないものが多かったようです」とはいえ、建築基準通り、基礎鉄筋、控え壁がしっかりとついているらば、そう倒れるものではありません。ところで、お宅のブロックべいは大丈夫ですか。この機会に一度点検してみて、ちょっとでも不安を感じたら、建築士や専門の業者に相談して、補強策を講じるのがよいでしょう。

マグニチュードと震度—その違い

「マグニチュード」は地震そのものの大きさをいい「震度」はある場所での地震による揺れの強さを表します。この「大きさ」と「強さ」は電球のワット数と明るさの関係に似ています。広い部屋に一個の電球がついているとします。部屋の明るさは、当然のことながら、電球に近い所ほど明るく、遠くにいくにつれて暗くなります。

ところで、この電球をもつとワット数の大きい電球に替えるとき、部屋の明るさが増し、いままで暗かった所も、明るくなります。このワット数がマグニチュードに相当し、部屋の場所によって違う明るさが震度というわけなのです。このように、マグニチュードは「震源から放出されるエネルギーの大小を表す尺度」なのに、対し、震度は「地震を感じる場所の揺れの強さを示す尺度」なのです。